

会 議 録

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 会議の名称 | 平成29年度第1回戸田市立地適正化計画策定委員会 | | |
| 開催日時 | 平成29年8月8日(火) 19時00分～20時45分 | | |
| 開催場所 | 戸田市役所5階 大会議室C | | |
| 委員長等氏名 | (委員長) 中井 検裕教授、(副委員長) 大沢 昌玄教授 | | |
| 出席者氏名 (委員) | 別紙のとおり | | |
| 欠席者氏名 (委員) | 別紙のとおり | | |
| 業務受託者 | 株式会社地域計画建築研究所 坂井、山崎 | | |
| 事務局 | 大熊部長、金子次長、山老課長、松本主幹、森谷主任、袋主任 | | |
| 議 題 | 課題解決のための施策・誘導方針(素案)について | | |
| 会議の経過 | 別紙のとおり | | |
| 会議資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 平成29年度戸田市立地適正化計画策定委員会名簿等 ・ 立地適正化計画策定に係る検討スケジュール 資料1 ・ 立地適正化計画の概要及び平成28年度検討結果(概要版) 資料2 ・ 課題解決のための施策・誘導方針(素案) <li style="padding-left: 20px;">【戸田市立地適正化計画素案(抜粋)】 資料3 ・ 平成28年度検討結果 資料4 | | |
| 議事録確定 | 戸田市立地適正化計画策定委員会 委員長 中井 検裕 | | |

(会議の経過)

| 発 言 者 | 議題・発言内容・決定事項 |
|-------|--|
| | <p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 都市整備部長挨拶</p> <p>4 委員紹介</p> <p>5 委員長・副委員長選出</p> <p>6 委員長・副委員長挨拶 委員紹介</p> <p>7、8 報告事項 資料1及び資料2について事務局から説明。</p> |
| 委員 | 戸田市立地適正化計画検討委員会は、庁内のどのような所属で構成されているか。 |
| 事務局 | 検討委員会は、議会関係、庶務関係、人事関係部署などを除いた13の部局、幹事会及び作業部会は29の所属で構成している。 |
| 委員 | 庁内の所属50程度か。 |
| 事務局 | 正確な数は把握していないが、先ほど説明した大半の所属で構成されている。 |
| 委員 | まちづくりの課題として、市内鉄道3駅である戸田公園駅、戸田駅、北戸田駅に個性がないことが挙げられているが、それぞれの駅に個性や特色を設定しなければならない理由は何か。 |
| 事務局 | 例えば、日常生活に必要な施設などは市内鉄道3駅に揃っていた方が良く、無理に差を付ける訳ではないが、各駅で土地利用現況等が異なるため、それらをいかした施設誘導など、それぞれ拠点形成のアプローチ |

| | |
|-----|---|
| | が変わってくると考えている。 |
| 委員 | 駅毎の特色といっても、立地を誘導するのは民間施設が中心になると思うが、採算重視の民間施設が思い通りに立地し、駅毎の特色を生むことができるか疑問である。 |
| 事務局 | 全てが思いどおりはいかないかもしれないが、官民連携により適切に施設を誘導していきたいと考えている。 |
| 委員長 | 誘導する施設を決めれば、民間施設に対しても国、自治体からの補助等の支援ができることが本計画策定の一つのメリットである。 |
| 委員 | 補助金は結局税金からくるものであり、税金を上げれば経済が停滞し、にぎわいも生まれなくなってしまう。 |
| 委員 | そもそも立地適正化計画は、将来を見据えてコンパクトシティを目指していくという趣旨の計画であるか。 |
| 事務局 | 地方都市ではコンパクトシティ形成のために計画策定を進めているところもあるが、本市の場合は、市街地を縮小させるのではなく、現在より生活利便性を向上させていくことを主眼において計画づくりを進めている。 |
| 委員 | 了解した。20年後を見据えて、高齢者等も歩いて様々な施設に行くことができる、そのような拠点をいくつか設置していく計画と考えれば良いか。具体的なイメージがあれば理解しやすいが、それはいつ出てくるのか。 |
| 委員長 | どういった施設をどこに誘導するかは次回の委員会で提示する予定であるが、それで良いか。 |
| 事務局 | 誘導する区域、施設等については、次回委員会で案を提示し、議論させていただく予定である。 |
| 委員 | 具体的な絵姿が出てくると、理解しやすく議論も活発になると思うので宜しくお願いする。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>具体的な内容は、次回に提示するが、基本的には、市内鉄道3駅を核として中心拠点をつくり、広域対象の施設を誘導することで、市民誰もが利用しやすくなるという視点で検討を進めている。</p> |
| 委員 | <p>計画期間が20年後と設定されているが、20年あれば自動車の自動運転が発達しており、日常生活における移動距離についてあまり意識する必要がなくなることから、自動運転に対応した基盤整備を考えるべきである。このような先見性を持って計画の内容を検討することが非常に大切である。</p> |
| 事務局 | <p>今年度から2か年で検討を行う都市交通マスタープラン策定の中で整理を行うものとします。</p> |
| 委員 | <p>市内のゾーニングについて、居住系を4つのゾーンに区分した理由は何か。例えば、都会的で洗練された暮らしといても、まちなかのマンションは、入居時に若いファミリー層を中心に構成されるが、いずれ高齢者だけになってしまう。時系列的な変化も踏まえながら20年後の市の姿を描いてもらいたい。</p> |
| 事務局 | <p>ライフスタイル、ライフステージは人によって刻々と変化していくことから、それらを受け止め、様々な人々が市内で生活しやすいよう、地域ごとの都市活動や目指すまちの姿を想定し、市内居住を促していこうと考えゾーニングを設定した。</p> |
| 委員 | <p>目指すべき都市の骨格構造図において、下笹目から成増・高島平方面への公共交通ネットワークが図示されているが、そのような計画があるのか。</p> |
| 事務局 | <p>計画ではなく現状として、下笹目から成増・高島平方面へのバス路線は既に存在しており、この路線を使って私鉄、地下鉄に乗り換えている人もいることから公共交通ネットワークとして図示した。これは、市内鉄道3駅を経由しなくても都内へ行くことができる公共交通網を維持していく方向性を示している。</p> |
| | <p>9 議事 資料3について、事務局より説明。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>P.1の拠点の施策・誘導方針の中で、「にぎわい、交流が生まれる施設の誘導」とあるが、現在、市有地の売却が進められる一方でサービス施設が足りないという話がある。にぎわいや交流のための施設をどのように誘導していくのか。市有地の活用などは考えているか。</p> |
| 事務局 | <p>施策・誘導方針として、既存ストックや公有地の活用を記載しており、使えるものは積極的に活用し、柔軟に官民の施設の誘導につなげていくことを考えている。</p> |
| 委員 | <p>これまでの検討委員会では、市有地の有効活用などの意見はなかったか。</p> |
| 事務局 | <p>次回の検討委員会にて誘導施設や誘導施策を提示する予定であり、具体的な実現化手法等について意見が出てくると考えている。</p> |
| 委員 | <p>埼京線開通後 30 年以上が経過するが、鉄道駅前の開発が進んでいない。蕨市や越谷市等では、県と連携して空き店舗活用に向けた対策を行っているが、本市でも、地権者等を巻き込んだ取組が必要ではないか。</p> |
| 事務局 | <p>官民連携の視点を持って推進しなければ、拠点形成なども難しいと認識している。</p> |
| 委員 | <p>toco バスの運営は赤字であると聞いているが、公共交通機関の利用促進は難しいのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>toco バスは市民の足として必要であることから、市費を投入し運営を行っているが、路線バスも含めて改善すべき課題があると認識している。</p> |
| 委員 | <p>toco バスの現状として、運行経路、運行時間が利用者のニーズと合っていないと思う。現状の toco バスの運営方法では、利用者増加へつなげようという意識が感じられないことから、バス利用者増加の手立てを考えるべきであると考え。例えば、人口の少ない地域であっても、当初は赤字覚悟でも路線を整備することにより、利便性が高いと感じた人が住むようになり、施設立地のニーズも高まる。このような誘導の発想がないと実効性を持った計画とならないのではないかと考える。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 今年度から行っている都市交通マスタープラン策定の検討において庁内での議論を深め、本計画に反映していく予定である。 |
| 委員 | 自転車での移動について触れているが、これまでレンタサイクル等に関する議論はあったか。 |
| 事務局 | レンタサイクルへのニーズがあるのであれば、庁内の関係部署に確認のうえ、検討してまいりたい。 |
| 委員 | 住工共生地域については早く手を打たないと、工場跡地にマンションの立地がどんどん進んでしまう。近隣に住宅が増えれば工場は移転してしまい、市の税収減少にもつながってしまう。工業を守ることにについてしっかり考えるべきである。20年先を見据えた計画とのことだが、早急に対応すべきものと将来的な対応と、メリハリを持って計画づくりを行ってもらいたい。 |
| 委員 | 工場が市外に移転してしまう原因はどこにあるか。 |
| 事務局 | 現在よりも広い敷地が必要となり、市内ではそれを確保することができないこと、また税金の高さも原因の一つではないかと考える。 |
| 委員 | 都市間競争の中で、税金の優遇などがないと工場移転の流れは変わらないのではないかと。 |
| 事務局 | 誘導施策の中で検討します。 |
| 委員 | まちづくりに関する詳細の内容は、次回以降に提示されるとのことなので、具体的な議論をしていきたいと考える。 |
| 委員 | 工業について、20年後は今と同じ形態ではないかもしれないが将来の技術革新等を見据えて考えるべきである。 |
| 委員 | 庁内でプロジェクトチームを立ち上げ、策定委員会での意見を直接、担当所属に聞いてもらう体制を作った方が効率的ではないか。 |
| 事務局 | 策定委員会でもいただいたご意見については、確実に担当課に伝達し、対応策についても検討委員会、幹事会、作業部会において検討をしてい |

| | |
|------|---|
| 副委員長 | <p>きたいと考えている。</p> <p>広く薄くなった都市の怖さを示した方が、計画の必要性が現実味を持って見えてくると思う。</p> <p>またピーク時人口が14万人以上に達する中で、これに対応したインフラを整備したら、人口減少後には不要になってしまい、次世代への負の遺産となりえることなど、共通認識として持っておいた方が良い。</p> <p>自動運転についても、段階的に考えていく視点が重要である。まずは公共交通の自動運転化を進め、沿道に居住を誘導していくことが考えられる。</p> |
| 委員長 | <p>今後20年で戸田市の産業、交通、通信がどのように変化していくのかも踏まえた計画のロードマップが必要かもしれない。時間軸を意識して、どのように計画を具体化していくか、検討してもらいたい。</p> |
| 委員長 | <p>策定委員会で話し合った内容は公表するのか。</p> |
| 事務局 | <p>会議議録要旨と併せて、本日配布した資料を市ホームページにおいて公表する予定である。</p> |
| 委員長 | <p>議論する内容が多く多岐にわたることから1時間30分の会議時間では、時間が足りないと考える。開始時間を早めて、2時間程度確保できないか、事務局で検討してもらいたい。</p> |
| 事務局 | <p>了解した。</p> <p>10 その他 次回検討委員会については、12月7日（木）であり、開催時間も含めて詳細については、後日正式な通知をする。</p> <p>11 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |

(別紙) 平成29年度第1回戸田市立地適正化計画策定委員会 出欠席者一覧

| 区分 | 所属組織・役職等 | 委員氏名 | 出欠席 |
|--------------|-----------------------------|--------|-----|
| 学識経験者 | 東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授 | 中井 検裕 | 出席 |
| | 日本大学 理工学部 土木工学科 教授 | 大沢 昌玄 | 出席 |
| 戸田市町会 連合会 | 副会長（下戸田地区） | 金子 清視 | 欠席 |
| | 副会長（上戸田地区） | 市川 悦夫 | 出席 |
| | 副会長（新曽地区） | 駒崎 繁夫 | 出席 |
| | 副会長（笹目地区） | 長谷川 春一 | 出席 |
| 関係機関 | とだわらび青年会議所 | 菅原 啓太 | 欠席 |
| | 戸田市社会福祉協議会 | 細渕 栄二 | 出席 |
| | 戸田市商工会 | 田中 治夫 | 出席 |
| 公募市民 | — | 江崎 奈穂子 | 出席 |
| | — | 小森 昌樹 | 出席 |
| | — | 西塔 幸由 | 出席 |